



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

2 1 世紀日本における福祉思想の基礎研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 千秋 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/68

はじめに

本研究の目的は、多国籍企業化の進展とバブル崩壊後の経済不況を通じて、国際的にも社会保障・社会福祉がとみに縮減されるに及び、21世紀を迎えるにあたって、新たに福祉国家の思想的基盤を検討し、その理論化のための基礎研究を行うことであった。

この研究にあたっては、世界史的にみた福祉国家の発展について、前世紀末から第二次世界大戦直後までに第一段階は確立されたと捉え、その後の第二段階は1970年代に入り、日本のような確立過程のものも含めて縮小を余儀なくされ、90年代には本格的に再編の時期に至った、という枠組みを設定した。その上で、本研究では、主としてこの第二段階以降の福祉国家の在り方の検討しつつ、以下の目標を掲げて研究を行ってきた。

主軸としては、21世紀の半ばまでは通用するような福祉思想の基礎を、従来の福祉国家研究や社会保障研究の難点を克服して築く。その縦軸として、既存の古典近代以来の自由主義や新自由主義、新保守主義、さらには社会主義等の思想とこれらに基づく福祉国家的諸政策に対する批判を集約する。そして横軸として、多国籍企業化等の世界情勢との関連という次元から、子供・家族を含む諸個人の生活・生命という次元にまで及ぶ、広範囲の諸問題を統一的に把握しうる福祉思想の基盤を形成することである。

このような目的と目標を果たすために、六人の研究組織各メンバーは主として以下の研究課題を分担した。吉崎はリベラリズムにおける福祉思想を現代においてのみならず歴史的にも検討し、後藤は多国籍企業の時代における福祉思想の検討を通して新福祉国家像の構築をめざした。中西は社会的コーポラティズムと福祉思想との関連を社会関係資源を基盤に追求し、中山は教育及び家族の現代的諸問題と福祉思想の基本的接点の解明に努めた。また竹内は社会的弱者をめぐる福祉思想の検討を通して平等理論の確立をはかり、福祉先進国であるデンマークから得られる福祉思想の研究については、小池直人氏(名古屋大学)の協力を得た。吉田は研究全体の進行と報告のとり纏めにあたった。

研究活動の実施については、研究全体の進展を図って、各地に散在する六人の日常の理論研究を持寄る研究会を重視し、補助金の多くを全体会と理論分析部会にあてた。さらに、理論的検討と現実との乖離をなくすために、政策的に実施されている福祉関係の「構造改革」の現状把握を行う現状分析部会を実施するなど、後出の「研究会等実施状況」報告も示すように、精力的に研究を行った。その結果、内容的にも充実し、量的にも、単行本4冊、共著書6冊、学会誌等の論文43本という(次頁以下参照)、六人という少人数と三年という短期間にしては、相当な成果を得ることができたと思われる。

これらの研究作業を通して、21世紀を迎えた日本における福祉をめぐる時代状況と理論・思想の基本的流れは把握できたように思われる。もっとも、その理論的成果は、現在新たに科学研究費を申請している来年度以降の研究を通じて、より体系的に展開されるべきものであり、現段階では基礎概念の整理及び纏めという段階にある。従って、また「研究成果報告書の作成・記入方法について」で「当該研究計画の成果を既に学会誌等に発表している場合には、その印刷物をこの報告書に代えても差し支えない」とされていることも鑑みて、本報告書では、この期間に公刊された学会誌論文等の抜き刷りを主とする公刊された研究成果によって、研究報告に代えることとしたい。